

第1・3・4・5・6学年 体育科学習指導案

指導者 前田 大地

- 1 日時 令和5年10月23日(月) 5校時(13:45~14:30)  
 2 場所 体育館  
 3 単元名 風の子サーキットを攻略しよう【走・跳の運動(遊び)】  
 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	<p>児童(1年生男子1名、女子2名 3年生女子2名 4年生男子1名 5年生男子1名 6年生 男子1名、女子2名)は、体を動かすことを好み、全校で仲良く遊んでいる。6年生を中心に下級生のことをよく見て、みんなが楽しめるように考えながら遊ぶことができる。</p> <p>○ 新体力テスト、水泳学習等の様子から、運動能力の面における個人差は大きい。特に、跳躍系の種目が苦手な児童もおり、前向きに取り組めるように工夫する必要がある。(知識及び技能)</p> <p>○ 6年生が中心となり、自ら手本として、下級生に体の動かし方を見せる機会がある。また、下級生は上級生のアドバイスを基に練習を重ねることで、適切な動作を身に付け、できるようになる喜びを感じてきている。しかし、アドバイスの語彙が少なく、効果的でない場面もある。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○ どの活動でも意欲的に取り組んでおり、きまりを守りながら、誰とでも楽しく運動や遊びをする態度は育っている。しかし、日常的に運動する機会が少ないので、動きや遊びの種類が限られており、様々な動きを経験させる必要がある。(学びに向かう力、人間性等)</p>	教材の特性	<p>走・跳の運動遊びは、走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや、調子よく走ったり、跳んだりする心地よさを味わうことができる教材である。また、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどの様々な動きを身に付けることも含んでいる教材である。</p> <p>今回扱う「風の子サーキット」は、走・跳・投の運動を複合的に組み合わせたものである。速さだけではなく、正確性を意識させるために、コーンの上にミニコーンを置き、入れ替えさせたり、的当てに高さに応じて点数をつけたりした。</p> <p>また、2つのグループに分け、最終的にリレーを行い、競わせる展開としたい。それによりグループ内で互いの練習を見合ったり、動画を撮影したりして、アドバイスを必要性が生じる環境とした。個人の向上と各グループの工夫を促せるようにしたい。</p>
--------	---	-------	--

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て			イ 評価規準					
「教材とつながる」		「仲間とつながる」	「自分とつながる」		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
① 発達段階に応じて難易度が調整できるように場を設定し、子どもが何度でも取り組めるようにする。また、子どもが意欲的に運動に取り組むことができるよう風の子サーキットという主題を設定する。		② グループごとに運動に取り組む時間を設け、互いの動きを確認したり、仲間と力を合わせたりするなど場面の設定をする。その際、互いを認め合い高め合えるよう、励まし言葉やスポーツオノマトペを活用させる。	③ 自分の成長を実感し、前向きに運動に親しもうとする子どもを育てるために、自分や友達の動きを動画で確認し、成果や課題を伝え合わせる。また、子どもたちの思いを実現する学習の締めくくりを工夫する。		ア 調子よく最後まで走ることができる。 イ 自分に合ったリズムで障害物を走り越えることができる。 ウ 短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶことができる。	ア 自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぶようとしている。 イ 工夫して運動に取り組もうとしている。 ウ 友達のよい動きや変化を見付け、伝えている。	ア 運動遊びに進んで取り組もうとしている。 イ きまりを守り誰とでも仲よく運動をしている。 ウ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしている。 エ 勝敗を受け入れようとしている。 オ 互いの動きを見合ったり、友達の考えを認めようとしていたりしている。 カ 場や用具の安全に気を配っている。	
ウ 単元における指導と評価の計画								
時	1	2	3	4	5(本時)	6	7	
学習の流れ	<p>どんなコースなのかたしかめよう。</p> <p>○ 「風の子サーキット」を確認してどのような動きが必要か考える。【視点①】</p>	<p>協力して風の子サーキットを攻略しよう。</p> <p>○ グループごとにそれぞれのセクションの練習を行う。【視点②】</p>		<p>○ グループごとに練習をしながら、互いの動きを見て、感じたことを伝え合う。【視点②】</p>	<p>○ それぞれのセクションの動きを動画にとり、自分の動きを確認する。【視点①】</p>	<p>○ パワーアップできるように特訓しよう。返り苦手な箇所の練習をする。【視点②】</p>	<p>○ 今までの成果をみんなに見せよう。【視点①】</p> <p>○ 基にタイムを計測する。【視点①】</p>	<p>○ チームリレーをしよう。タイムを縮められるようにする。 ○ リレーの仕方を確認する。</p>
主な評価	知				ア、イ、ウ(映像)			
	思	イ(様態)	ウ(様態)	ウ(様態)	ア(ワークシート)	イ(様態)	イ(様態)	
	態	ア(様態)	イ、ウ(様態)	オ、カ(様態)		ア、オ(様態)	エ(様態)	

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 走・跳の運動遊びの楽しさに触れ、障害物を調子よく走り越えたり、短い助走から踏み切って跳んだりすることができるようにする。(知識及び技能)
- 自分の能力に適した課題を見付け、活動の仕方を工夫したり、友達の動きを見て、考えたことを伝えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 運動に進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲よく運動したり、場や用具などの安全に気を付けたりして活動できるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年	低学年 〈走・跳の運動遊び〉	中学年 〈走・跳の運動〉	高学年 〈陸上運動〉
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 走ったり跳んだりする動き方を理解することができる。</li> <li>○ 低い障害物を走り越えることができる。</li> <li>○ 前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 走・跳の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を理解できる。</li> <li>○ 短い助走から踏み切って飛ぶことができる。</li> <li>○ 低い障害物を調子よく走り越えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解できる。</li> <li>○ リズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。</li> <li>○ 障害物をリズミカルに走り越えることができる。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 走ったり跳んだりする遊び方を工夫することができる。</li> <li>○ 考えたことを実際にやってみせたり、言葉で伝えたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の能力に適した課題を見付け、活動の仕方を工夫することができる。</li> <li>○ 課題解決のために考えたことを友達に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫することができる。</li> <li>○ 課題解決のために考えたことを友達に伝えることができる。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 走・跳の運動遊びに進んで取り組むことができる。</li> <li>○ 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動することができる。</li> <li>○ 安全に気を付けて運動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 走・跳の運動に進んで取り組むことができる。</li> <li>○ きまりを守り誰とでも仲よく活動できる。</li> <li>○ 器具等の安全に気を付けて運動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>○ 約束を守り、助け合って運動をしたり、友達の考えや取り組みを認めたりすることができる。</li> <li>○ 場や用具の安全に気を配ることができる。</li> </ul>

ウ 本単元を通して育てたい子ども像(ゴールイメージ)及び教師の願い

仲間とともに高め合って活動する愛顔あふれる子ども  
 仲間とのつながりを感じながら、体を動かす楽しさを味わわせたい。また、走・跳の運動遊びを多様に楽しむことを通して、自分や友達の考えに触れ、自己の能力を高める学びとしたい。

5 本時の指導（5／7）

(1) 目標

- 自己の能力に適した課題を見付け、活動の仕方を工夫することができる。（思考力、判断力、表現力等）

(2) 準備物

- 教師 コーン、ミニハードル、マット、ティーボール用ボール、ミニコーン、フラフープ
- ラダー、ボール入れ、マーカー
- 子ども 学習用端末 ワークシート

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（方法）【観点】
1 準備運動をする。 ・えひめ愛顔のトレーニング ・ゴム跳び	力いっぱい動けるように、体をほぐそう。 ・今日は、じょうずになりたい。 ・今日は、速く走れるようにしたい。 ・どうやったらじょうずにできるかな。	<input type="checkbox"/> けがの予防と走る動作の確認を込めて、一つ一つの動作のポイントを押さえながら行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 1年生とそれ以外では動作を変える。発達段階に応じてゴムの高さを変える。 <input checked="" type="checkbox"/> ゴム跳びの際にグーパーなどの声掛けをしてリズムよく跳べるようにする。
2 グループ毎に練習する。 ・練習（する） ・動画撮影（みる） ・用具の整理、応援（支える）	苦手なところを練習しよう。 ・こうしたらもっと良くなるよ。 ・じょうずな人のまねをしよう。 ・いいタイムが出るといいな。 ・もっとドーンって力いっぱい跳んだらいいよ。	<input type="checkbox"/> 自己やグループの特徴に合った練習ができるように、また、苦手な箇所が重なる場合を考慮して練習場所を変える。 <input checked="" type="checkbox"/> 運動を多様に楽しむことができるように、「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち自身で互いに考えたことを伝え合い、向上につなげる。
3 練習してきたことを生かしてタイム計測をする。 ・実演（する） ・見る（みる） ・用具の整理・応援（支える）	練習したことを生かしてタイムを計ろう。 ・練習したことを生かして頑張ろう。 ・上手な人の動きを見てお手本にしよう。 ・しっかり応援してあげよう。 ・練習したことができたならうれしいな。 ・苦手な場所が上手にクリアできるといいな。	<input checked="" type="checkbox"/> 自己の課題を見付け、その解決に向けて工夫しようとしている。また、友達の動きを見て、感じたことや考えたことを伝えている。（様態）【思・判・表】 <input type="checkbox"/> 記録を計測し、次の時間の目標と改善の見通しを持たせる。
4 活動を振り返る。	今日の活動を振り返ろう。 ・次の時間は上手にクリアしたい。 ・苦手なところが上手になった。 ・もっと上手になりたいな。 ・次の時間にいいタイムが出せるように頑張ろう。	<input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返る場を設けることで、次の活動へ意欲をつなげる。 <input type="checkbox"/> ワークシートに振り返りをする。低学年はあてはまる場所に○をつけさせる。 <input type="checkbox"/> 友達の良いところを発表し、次の活動の目標につなげる。

(4) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なく、どの子どもも意欲的に運動に取り組むことができているか。【教材とつながる】
- 励まし言葉やスポーツオノマトペを活用し、互いに認め合い高め合うことができているか。【仲間とつながる】
- 自分や友達の動きについて成果や課題を伝え合うことで、自分の成長を実感し、前向きに運動に取り組もうとする姿が見られたか。【自分とつながる】

(5) 場の設定（体育館）

